



# TEAM連携で取り組む低炭素社会づくり

## 4プロジェクトを展開

現在、広島県内には26の地球温暖化対策地域協議会(以下、TEAM)が設立され、市民や事業所、行政などと連携しながら、地域の特性を生かした活動を展開している。

今年度は、複数TEAMと脱温暖化センターひろしまなどで共同体を形成して温室効果ガスの排出削減効

果を検証し、成果の活用を通じて低炭素社会づくりを目指すとして、4つのプロジェクトを立ち上げたので、その活動内容や成果を紹介する。なお、この事業は、環境省の補助金(地域活動支援・連携促進事業)を活用した。

■緑のカーテンプロジェクト  
緑のカーテン設置によるCO<sub>2</sub>削減効果や実測による温度上昇抑制効果、効果的な設置方法などを検証し、結果を県内全域に広め実践者を増やすことをねらいに、13TEAMと広島工業大学都市・建築環境研究センターでプロジェクトを結成した。



エコ技でカレーを調理するメンバー(上)、省エネに挑戦するチャレンジャーを対象に学習会を開催(下)



エコ技でカレーを調理するメンバー(上)、省エネに挑戦するチャレンジャーを対象に学習会を開催(下)

まず、省エネに挑戦するチャレンジャーを募集。8~9月に学習会を開催し、家庭のエネルギー使用実態や省エネ対策メニューなどを学んだ。その後、チャレンジャーには省エネを実践すると同時に、9~10月の電気・ガス・灯油使用量や取り組んだメ

ニューなどを記録してもらった。

11~12月には、再度学習会を開催し、実践を振り返るほか、省エネを広め活動を拡大させるためのアイデア出しを行った。

641人が挑戦し、2カ月間の電気使用量は昨年同月と比較して1万4510kWh削減できた。また、都市ガスは13.5立方メートル削減、LPガスは22立方メートル増、灯油は378リットル削減となり、2カ月で1万3755kWhのCO<sub>2</sub>が削減できた。

■キッチン改革プロジェクト  
煮るに着目し、エコクッキングによるエネルギー使用量削減効果を検証し、削減効果の高い調理法の実践を通じてキッチンでのCO<sub>2</sub>削減を推進しようとして、TEAMと広島工業大学都市・建築環境研究センターでプロジェクトを結成した。

■エネルギーの無駄追放プロジェクト  
家庭のエネルギー消費状況を把握すると同時に効果的な省エネ手法を習得し、無理なく家庭からのCO<sub>2</sub>削減を図ることをねらいに、14TEAMでプロジェクトを結成した。

まず、学習会を開催し、メンバーがカレーを調理する際に実践しているエコ技を共有。その後、実験を重ね、市販の箱に記載されているレシピで調理した場合とエコ技で調理した場合のガスおよび電気の使用量を測定した。その結果、「保温」で加熱時間を短縮し、火力のレベルを下げて、美味しく仕上がる新たなエコ技が誕生し、箱のレシピで作るよりもガスは約30%、電気は約20%もエネルギー削減につながった。また、フリースなどを使った保温調理は、加熱時間の短縮につながる

るうえ、特別な道具が無くても実践可能で、非常に有効なエコ技であることを再確認した。

現在、検証結果やエコ技などをまとめた冊子を作成中で、エコクッキング教室などで活用してもらおうと予定だ。

■エコドライブ推進プロジェクト  
車の燃料消費状況を計測する装置を取り付けて、エコドライブの効果を実測で検証してエコドライブの普及に役立てようと、TEAM MATEひろしまや生協ひろしま、広島工業大学でプロジェクトを結成した。

募集人数は、前期・後期でそれぞれ15人の計30人である。

まず、運転データを集積する計測装置を車に取り付け、1カ月間はこれまでどおりの運転をしてもらった。次に、交通エコロジー・モビリティ財団が認定した自動車教習所でエコドライブ教習を受講してもらった。

30人の参加者から集積したデータの累計は、走行距離5万5132キロ、燃料消費量は3952リットルで、平均燃費は14.8リットル/100キロであった。

参加者の感想では、「計測装置の取り付けやエコドライブ教習は面倒だったが、運転状況がリアルタイムで分かるのは面白かった」「エコドライブ教習は思ったよりも効果的だった」「クセに気づけたので良かった」といった声があった。アンケートでは、エコドライブを続けるには、車にエコドライブが分かる機能を付けることと「燃料消費量が分かる」といという感想が多かった。

### 平成25年度環境と健康のコミュニティ活動助成事業一覧 ～活動の概要～

部門	団体名	事業名	活動の概要
導入型	世羅町津名地区	世羅西地域ゴミステーションモデル推進事業	学習会・エコツアーを開催し、きれいなゴミステーションづくりをめざす。
	三次市布野地区	おいで〜やあ 横谷の大自然の中へ	あそび体験フェスタを開催し、各コーナーを回りながら楽しく環境学習をする。
発展型	廿日市市佐伯	佐伯リサイクルまつり	リサイクルまつりを開催し、ごみの減量化、資源の有効活用を推進し、地球環境を守るための動機付けを行う。
	北広島町	北広島町笑顔で取り組む脱温暖化のまちづくり事業	エネルギーの無駄遣いをなくす生活習慣を広め、日常生活から排出される二酸化炭素を減らす取り組みを行う。
	東広島市	アイガモ農法による米づくり教室	アイガモ農法による無農薬で環境にやさしい米づくりを行い、食の安全や環境についての理解を広める。
	世羅町	世羅町公衛協PR作戦	スポーツごみ拾い大会を開催し、公衛協活動への理解を深め、公衛協の活性化を図る。
	世羅町西大田地区	西大田地区公衛協活性化事業	水辺教室やエコツアーを開催し、環境づくりのリーダーをめざし、公衛協の活性化を図る。
	福山市泉学区	「学社融合」小さな行動 大きな「力」に!	緑のカーテン、マイ箸づくりなどの活動を行い、温暖化防止について学習し、アクションを起こしてもらう。
	福山市道上学区	個別省エネ診断	環境家計簿により省エネ診断を行い、学区内の季節変動を把握する。さらに、地区の省エネ意識向上に努める。
広域型	庄原市西城地区	「学社融合・食育教室」 とうもろこしの種まき、収穫体験	とうもろこしの種まき、収穫を体験し、収穫したとうもろこしを食べ、食育につなげる。
	尾道市	「健診へ行こうよ!」事業	地域コミュニティによる受診率向上運動のさらなる飛躍をめざす。また、モデル地区内での生活習慣病予防学習会などを行う。
	府中市	環境マップ作製(活動事業)	環境マップを作成し、公衛連の活動を広く市民にアピールする。さらに、地域の環境美化についての意識づくりを行う。

プロジェクトの成果は冊子にまとめ、今後の活動の参考に活用してもらおうと予定だ。

(脱温暖化センターひろしま)

た。燃費削減に成功した参加者の平均削減率は6%で、年間62リットルの燃料削減となり、年間143kWhのCO<sub>2</sub>が削減できる。車種別では、軽自動車は5%で年50リットル削減、普通乗用車は9%で年106リットル削減、ハイブリット車は8%で年62リットル削減となった。

プロジェクトの成果は冊子にまとめ、今後の活動の参考に活用してもらおうと予定だ。

(脱温暖化センターひろしま)

たので良かった」といった声があった。アンケートでは、エコドライブを続けるには、車にエコドライブが分かる機能を付けることと「燃料消費量が分かる」といという感想が多かった。

プロジェクトの成果は冊子にまとめ、今後の活動の参考に活用してもらおうと予定だ。

(脱温暖化センターひろしま)

### 市民のエコ意識の調査 エコ祭り、環ッハッハーンよしじま 2013



広島市地球温暖化対策地域協議会  
受講者名：中村長幸 菅宏

エコイベントへの参加率を向上させようと、中区・安佐南区の50世帯に、回覧板を使って告知チラシを配布。チラシには、年代や来場方法などを調査するアンケートを貼付し、イベント当日に持参しても

らって、チラシによる啓発効果およびエコへの関心度を検証した。初の試みであり、アンケート持参者は少なかつたが、今後は小中学校の校内ポスター板などいろいろな方法でPRし、啓発地区も拡大していく予定だ。

### 知っとうやあ〜環境の大切さ クリーンな水からはじまる脱温暖化

布野の食と脱温暖化を考える会  
受講者名：森本美知江・丸亀英一・徳清真

「布野の食とまじり」において、温暖化の被害や気温上昇が引き起こす影響などをまとめたパネル展示とチラシ配

布、廃油回収、ごみの持ち帰りなどを通じて、楽しみながら脱温暖化意識の向上を図った。併せて、布野地区公衛協と連携し、ごみの持ち帰りを呼びかけたところ、ごみつ出不いイベントとなり、ごみ問題への意識啓発にもつながった。

### 誰もが作れるグリーンカーテンのマニュアルづくり めげずに再チャレンジ!

福山北部脱温暖化地域協議会  
受講者名：田口・甲斐啓義・後藤勝行

グリーンカーテンの普及拡大および継続による脱温暖化の町づくりをめざすと、栽培テクニックや工夫した点など、さまざまな情報をアンケートで収集し、1冊のマニュアルにまとめ

た。受講生は、マニュアルを活用しながら栽培者を増やすとともに、栽培者同士が情報交流できるネットワークの構築を検討していきたい」と、展望を語った。

### ためしてみよう 節電エコライフ! 再認識! 節電作戦

府中市公衆衛生推進委員会連合会  
受講者名：荒木薫土井泰弘・伊藤直己・五ノ陽子

1万人のエコチェック事業を活用し、9月の1カ月間、省エネに取り組み、電気使用量を前年同月と比較することで省エネ意識の向上を図った。推進委員486人で約7トンのCO2削減に成功した。

また、「エコチェックカード」の持参と引き換えに市の指定ごみ袋を配布したところ、昨年46.2%だった実践率が70.5%へUPするなど、今後も、実践率向上に向けた新たな工夫に期待したい。

## 新たに29人の地域リーダーが誕生 脱温暖化活動の更なる盛り上がり期待

1月17日、脱温暖化の地域リーダーである「地球温暖化防止活動推進員」を養成する研修が終了し、新たに29人が広島県知事から委嘱を受けた。この研修は、脱温暖化センターひろしまが主催し、前期と後期の2日間のカリキュラムで実施。前期研修において、地元で実践できる脱温暖化のための活動を企画した後、約3カ月の間に実践し、後期研修で成果を発表するというもの。各地で11件の企画が実践されたので紹介する。

### 電気・ガス・ガソリン使用量 見える化「キャンペーン」!

エコネットたけはら  
受講者名：手島小豆江・島本博幸

家庭で使用するエネルギー使用量トップ3を占める電気・ガス・ガソリン使用量を9〜11月の3カ月間記録できるシートを作成し、協力者56人に配布。記入用紙にシールを貼ることで視覚的に使用量の

推移を把握し、省エネ意識が高まるよう工夫した。協力者からは「目で見て確認でき、先月より減らしたい」という気持ちになり、取り組みへの意欲が高まったなどの声が聞かれた。

### 薪を使って温暖化防止 雑木林の中で自然体験をしよう!!

福山市広瀬学区公衆衛生推進協議会  
受講者名：世羅秀男・世羅悦子

楽しみながら里山への関心を高め、温暖化防止をPRしようと、雑木林から木を伐採し、薪を作り、安い薪の供給を行うとともに、薪ストーブの良さをアピールするほか、間伐体験や薪作り体験など



たので、今後は年間を通じてイベントの企画にも挑戦したいと意気込む。

### 我が家の家電調べ ネエーおしえて我が家の家電はいつまで

エコ推進会  
受講者名：落岩敏江・奥田耐子・池永節子

家庭から多くのCO2が排出されているという現状を知ってもらい、省エネを考えるきっかけにしようという思いで「ふるさと祭」で家電調べのアンケートを実施。来場者17人から、家にある電化製品の数

を聞き取ったところ、冷蔵庫・冷凍庫を中心に、必要以上に保有しており、コンセントを差しっぱなしという家庭が多かった。今後は上手な家電の使い方など、情報提供できる場をつくっていききたいという。

### PETボトルのキャップ回収事業 ECONOMISE

受講者名：梶田谷正雄・久保川美知子

ごみの分別・再利用の普及を図ろうと、町内の自治会館3カ所にPETボトルのキャップ回収BOXを設置。回収板を使って、キャップの回収と分別の意義などを紹介したチラシを

### アイドリングためよー運動 脱温暖化ですばらしい環境づくり



脱温暖化プロジェクト  
受講者名：近藤洋三・近藤芳子・林亨

アイドリングストップによる脱温暖化の町づくりをめざすと、47事業所および6大型店へ協力要請するほか、イベントや店頭でチラシを配布し、広く啓発活動を展開した。また、町内3つの交差



点でのぼり旗や横断幕を使ったPRのほか、アイドリングストップ実践車をカウントする実態調査を実施。まだまだ浸透していないことが分かり、効果的な啓発方法の検討が課題だ。

### グリーンカーテン普及事業 「グリーンカーテン自慢」でエコライフ

大竹市公衆衛生推進協議会  
受講者名：佐々木善市・北保夫

平成26年度の新規事業として、グリーンカーテンをテーマに脱温暖化活動を盛り上げようと、公衛協専門部の会議で事業のねらいや今後の進め方等について意見交換を行い、事業実現に向けて検討

を重ねた。今後は、事業の周知やグリーンカーテンコンクールの実施に向けた準備、協力体制を整備するなど、企画が具現化することに期待したい。



⑮ 振り返り

# あそびを学習や体験活動に 自然を楽しみ環境を守る

「里山里海を楽しむ」では14回にわたって、公衛協の実践活動で活用されることを念頭に『自然を楽しみ環境を守る』という考え方で、自然遊びのメニューや環境を守るポイント、環境と関わりが深い民俗などをレシピア風に紹介してまいりました。

特に公衛協が「あそび」を「学習」や「体験活動」に変身させ、身近な環境を守り楽しむ「態度」や「学び」、「気づき」を次の世代に伝えていくためのきっかけづくりにつながるよう、数あるメニュー・ポイントから選定しました。

より多くの方に、公衛協活動を知ってもらい、理解と協力を得るには、仲間づくりが重要です。そのために里山や海岸での清掃活動、アドプト空間での定期清掃の際、清掃を終えて解散とせず、このシリーズで紹介したメニューを取り入れて、親子や子ども、若者が参加しやすくなる企画づくりに挑戦していただきたいと思います。

皆さんが体験してきた「あそび」には、楽しさはもちろん、生きものや資源を大切にすることやアイディア、沸きあがる疑問を解き明かそうとする探究心、仲間と協力して遊ぶ協調性、効果を高めようとする工夫など、人間の成長に大きな影響を与える要素がたくさんあります。

「ア・ラ・モー」は、生まれ育った地域の環境を思い起こしてほしいと思います。

皆さんが守ってきた地域の環境を引き続き維持していくためには、次の担い手に、その楽しさを伝えていかなければなりません。この連載がその一助になれば幸いです。

皆さんが守ってきた地域の環境を引き続き維持していくためには、次の担い手に、その楽しさを伝えていかなければなりません。この連載がその一助になれば幸いです。

里山里海を楽しむ 連載テーマ一覧 ※( )は連載号数

リースづくり(561)	竹の使い方(561)
燻製(562)	山焼き(562)
山菜(563)	山歩き(563)
昆虫採集(564)	危険な生き物(564)
手作り釣竿(565)	ハイキングのマナー(565)
まき割り(566)	秋の味覚(566)
バウムクーヘン(567)	バードコール(567)
焼きマッシュマロ(568)	焚き火(568)
朝干狩り(569)	塩づくり(569)
干潟のカニ(570)	アラムシロガイ(571)
ビーチコーミング(572)	海プログラム安全対策(573)

学ぶ  
ふるさとの自然環境  
遊ぶ  
守る

ア・ラ・モー

⑬坂町公衛協

【ウォーキング】

1月18日、安芸郡坂町において「第72回ようち坂町ウォーキング」が開催された。このイベントは、健康づくりを兼ねた町おこしを目的に企画され、産学官が月1回の持ち回りで行われている。

今回の参加者は、親子連れや一般参加など約30人で、潮風に吹かれながらウォーキングを楽しんだ。コースは2種類あり、通常の5キロコースと、物足りない人用にさらに平成ヶ浜の埋立地を歩く6キロコースが設けられた。

坂町民センターをスタート地点とし、全区間ほぼ平坦なコースであり、参加者はゴールまでの道のりを風景や人々とのふれあいを楽しみながら歩いた。

途中、健康運動指導士によるウォーキングの大切さや、健康づくりの重要性について、講話もあられ、健康にも配慮された。参加者からは、「短時間で適度な運動ができ、今後ぜひ参加したい」、「将来に向けての健康づくりは、町内外の人々が歩くふるさと自然のみち、さらには既存の7つの遊歩道コースを有機的に結びつけるウォーキングトレイルを整備し、町内全域をネットワーク化し、町内外の人々が歩く

能美脱温暖化未来会議は、地元の鹿川(かのか)小学校と多くの連携事業を展開しており、5年生を対象とした環境総合学習プログラムは今年で9年目を迎える。

地域の環境に興味や関心を持ってもらおうと、今年は5回の出前講座と5回の新聞づくりが予定されている。1月20日に開催された第1回目の授業を取材した。

第1回目は、ecoおじいさんこと能美脱温暖化未来会議の池田朝雄会長が講師となり、24節季や雑節、潮の満ち引きと月の関係などを学んだ。また、現在の鹿川湾の航空写真と、おじいちゃんおばあちゃんが小学5年生頃(昭和30年頃)、お父さんお母さんが小学5年生頃(昭和60年頃)の鹿川湾の航空写真を並べ、何がどう違うかをポストイットに書き込み、発表した。

クイズ形式で進む授業に、子どもたちは旧暦のカレンダーを見ながら、「ハイ!」と元気な声で答えていた。

このプログラムは、授業を受けておしまいではなく、まとめて発表するという一連の流れがポイントとなる。最終回には、班ごとにまとめられた壁新聞が披露される予定である。

講師陣や内容も工夫され、島の子どものおいてほしいこと(ecoおじいさん)、国立公園や海の生き物の話(環境省)、海の環境を再生させる方法(水産海洋技術センター)、鹿川湾の干潟や岩場の生きものの変化(さとうみ科学館)と、魅力的な授業が続く。

企画した池田会長は、『これからも、地元の環境について視点を変えながら伝えていく。興味を持ったら、調べことに繋げてほしい。そして、大きくなって、地元の環境を守る活動に発展することを期待したい』と思いを語った。

今後の授業の進展と、児童たちの成長に期待したい。

(脱温暖化センターひろしま)

町内を結ぶウォーキングトレイル

健康づくりと町おこしへ

大切なことである」といった前向きな声がかれた。

坂町では、市街地を中心に横浜公園、ベイサイドビーチ坂などの公園と、小屋浦(こいの森)が調和した、心も体も健康になる「自然に恵まれた健康で文化的な住みよいまち」の実現を目指している。

また、坂町公衛協では、平成25年度の活動のポイントとして「ウォーキング」を入り口とした環境と健康づくりを挙げ、活動を繰り広げている。

今後ウォーキング事業を継続して行い、地域の健康づくり、さらには活動の拡大発展に期待したい。

(地域活動支援センター)



出前講座のスケジュールを説明するecoおじいさんこと池田朝雄氏



ウォーキングを楽しむ参加者

# 食の安全の国際的取り組み視察

## 品質管理や検査機関職員など16名

**米 国 食 品 衛 生 調 査 団**  
に 参 加 し て

食品検査課 中川 圭太



CCDCの緊急時対応センター(上)、CCDCセンターでプレゼンテーションを聞く調査団(下)

平成25年11月10日から9日間、(公社)日本食品衛生協会主催の第38回米国食品調査団に参加した。本調査団は毎年結成され、米国が欧州のどちらかを訪問し、食の安全や感染症

に向けた国際的な取り組みを視察している。今回は米国の都市、ワシントンDC、アトランタ、サンフランシスコを訪問し、FDA(米国食品安全医薬品安全局)などの米国連邦政府機関やHACCPシステムが導入された食品工場など4施設を視察した。

調査の目的は、①米食品衛生強化法とその対応、②レストラン等食品等事業者に対する食の安全への取り組み、

③米国における感染症及び食中毒等の発生状況、④食品製造施設における衛生管理の取り組みなどであった。特に、米国連邦政府機関であるFDAやCCDC(米国疾病予防管理センター)は、通常では見学ができない施設であり、大変貴重な経験となった。

最初の訪問先のCF SAN米国食品医薬品局 食品安全応用栄養センターは、FDAの関係機関であり、ワシントンDCからハイウェイをバスで約40分走った郊外にある。ここはFDAの中でも食品について監視規格策定を行っている機関であり、日本という厚生労働省の食品関係の機関にあたる。連邦政府機関のためセキュリティが厳重であり、入館時にはパスポート提示、エックス線装置によるチェックなど、国際空港並みの管理であった。CF SANでは、2011年に成立した米国食品安全強化法についてのプレゼンテーションを受けた。この法律は国内食品、輸入食品など、米国で供給される全ての食品の安全を包括管理するものであり、HACCP方式の危害防止システムをこれらの食品に導入展開することを目的としている。注目すべきことは、食品に対する人

**HACCP** (ハザップ/ハセップ)  
(Hazard Analysis Critical Control Point)  
食品の原料の受け入れから製造・出荷までのすべての工程において、危害の発生を防止するための重要なポイントを、継続的に監視・記録する衛生管理手法。



お山の杉の子

毎年、春先になると、くしゃみ、鼻汁、鼻閉(鼻づまり)、あるいは目のかゆみといった症状を起す人がいる。「スギ花粉症」がその代表的なもので、いまや現代病の一つとなっている。喉のかゆみ、咳、皮膚のかゆみ、さらには腹痛や胃の膨満感まで伴う場合がある。「風邪を拗(こじ)らせてしまった」と

近年、胃がん罹患率は減少してきましたが、死亡率は他のがん比べて高くなっています。胃内視鏡検査は、前回お話した胃X線検査の2次検査として実施されますが、検査自体は5~10分程度、前処置を合わせて30分程度です。胃内視鏡検査は、口から挿入する場合、麻酔薬を5分程度口に含み喉を麻痺させて行います。最近の内視鏡は非常に細く、苦痛の少ない検査になっており、食道・胃・十二指腸の順に挿入していきます。

**人間ドック**  
がん検診を知る  
⑤ 胃カメラ



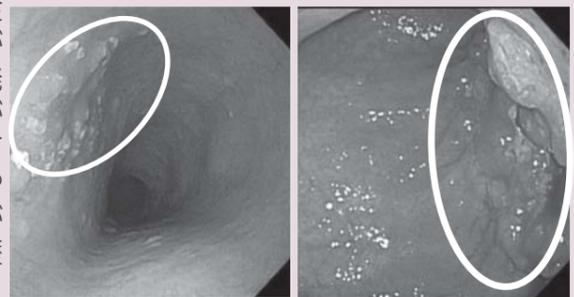
感染が胃がん発症に大きく関わっていることも分かってきました。今年度から、胃内視鏡検査を行って萎縮性胃炎と診断され、保険適用によりピロリ菌除菌が可能になりました。胃X線検査を受けて要精密検査になられた方、日ごろから胸焼け、胃もたれなど症状のある方、また症状がない方でも飲酒や喫煙歴のある方は、胃内視鏡検査を受けることで、がんの早期発見や早期治療に繋がります。健康で健やかな生活を送るためにも、2次検査や人間ドックを受診される際は、一度は胃内視鏡検査を受診することをご検討してみてください。

### 直接胃粘膜を観察、採取も

細く、苦痛の少ない検査に

胃内視鏡検査は、前回お話した胃X線検査の2次検査として実施されますが、検査自体は5~10分程度、前処置を合わせて30分程度です。胃内視鏡検査は、口から挿入する場合、麻酔薬を5分程度口に含み喉を麻痺させて行います。最近の内視鏡は非常に細く、苦痛の少ない検査になっており、食道・胃・十二指腸の順に挿入していきます。内視鏡は、直接胃粘膜に光を当てカメラを通して観察するため、微細な色調変化や凹凸などを確認することができ、胃炎や胃潰瘍の他、胃がん・食道がんなどの発見が可能です。さらに、精密検査として胃粘膜の一部を採取して病理組織検査を行うことで、良性悪性の鑑別を行います。胃内視鏡検査は、異常を発見した場合、定期検査から精密検査へ移行することが可能です。胃がん・食道がんは、早期には症状が出ないことが多く、早期発見のためには定期的ながん検診を受けることがとても重要になります。飲酒や喫煙歴のある方は、食道がんのリスクが飲酒や喫煙歴のない方に比べて高くなり、胃がんについてはピロリ菌

縮性胃炎と診断され、保険適用によりピロリ菌除菌が可能になりました。胃X線検査を受けて要精密検査になられた方、日ごろから胸焼け、胃もたれなど症状のある方、また症状がない方でも飲酒や喫煙歴のある方は、胃内視鏡検査を受けることで、がんの早期発見や早期治療に繋がります。健康で健やかな生活を送るためにも、2次検査や人間ドックを受診される際は、一度は胃内視鏡検査を受診することをご検討してみてください。



内視鏡で撮影した食道がん(左)、胃がん(右)

## 歳時記に収められた動植物の枯渇

### 自然の荒廃が招いた現代病

美しき名を病みてをり  
花粉症 井上様子  
化粧して目なし口なし  
花粉症 近藤幸子

粉症も今では季節になつてしまった。吟行も花粉症に悩まされてい

粉も遠くまで飛んで行つて条件のよいところで受粉しなければ、種の保存ができなくなつた。そのことを誰よりも

然の荒廃が招いた現代病との関係は多くのことを考えさせる。歳時記に収められた貴重な植物や動物の枯渇は「自然を尊び、風土を詠む」俳人にとって由々しき問題

思つて医者にかかる人が多い。花粉症の症状の程度は、花粉の飛散量によって左右される。この季節にはテレビの天気予報でも「花粉情報」を伝える

対処すべきだろう。「新日本歳時記」にも山肌が荒廃し、スギの花

たから、その山の木々の間で受粉し、実が落ちると定着して苗、つまり「お山の杉の子」に育つた。この頃では、下刈りをする人がいなくなつて

かくして、大量に放出された花粉は風に乗り、山越え野を越えて彷徨し、大都会の空まで「真っ黄色」に染めてしまつた。昔はこんな光景を見たことはなかつた。自

だつた。私たちが日本人は十五世紀までは「山の人」であつた。「もり」の語源は「木叢(こむら)」からきている。山に棲み、鎮守の森で神を崇めて生活してきた。環境の悪化は「お山の杉の子」だけではなく、俳句びとの心までも育たなくなつてしまつた。自然を大切にしたいものである。

「俳句セラー」北濱社抜粋



当会の貸し出しグッズの紹介

ソーラークッカー



名称:ソーラークッカー
梱包サイズ:35×84×13cm
集熱器直径:100cm
重量:3.5kg
付属品:やかん・フライパン
数量:1個



名称:カルピカ
梱包サイズ:85×85×30cm
集熱器直径:83cm
重量:3.1kg
付属品:やかん・フライパン・片手鍋
数量:1個

鍋帽子



名称:保温調理グッズ
数量:4個

(※1)「鍋帽子」は財団法人全国友の会振興財団の登録商標

今回は、組み合わせることで、省エネの学習効果を高めることができる貸し出しグッズを紹介する。
まず最初に、ソーラークッカーを紹介する。このグッズは、太陽熱を調理に利用するもの。発

自然エネルギーや熱を利用
実験や調理実習で楽しく学習



展途上国やライブラインの整っていない地域では、積極的に利用されているケースもある。当会では、「集光型」と呼ばれるパラボラ型のグッズを数点ラインナップしている。冬の時期でも、晴天で日中であれば、500ミリの水を25分程度で90℃以上にする能力を持っており、湯沸し実験や、ポップコーン、目玉焼きなど手軽な実験や調理から、カレーやおでんなど煮物調理にも利用できるパワーを秘めている。

続いて、「鍋帽子」(※1)を紹介する。文字通り、遮熱材で鍋をくるみ、熱が逃げるのを防ぐための道具である。当協会の実験では、水を沸騰させた後、鍋に蓋をして放置した場合と、鍋帽子で包んだ場合とでは、30分後に前者が67℃、後者が80℃とその保温効果が実証されている。

また、使わなくなったフリースやダンボール、新聞紙などを活用し、家庭にあるもので、手軽に鍋帽子と同様の効果をつくり出すこともできる。
この2つの貸し出しグッズを利用すれば、消費エネルギーゼロのコッキングを行うことができるため、環境学習はもとより、アウトドア、レクリエーション、防災対策にも役立てることができる。

健康で住みよい社会環境づくりへ

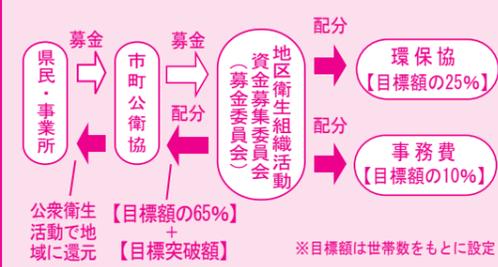
ご存知ですか 環境・健康募金

環境健康募金の正式名称は「地区衛生組織活動資金募集」です。昭和35年に世界保健デーの4月7日を「健康感謝の日」と定めて以来、毎年地域ぐるみの公衛協活動を行うための原動力として活動資金を集めており、平成26年度で55回を迎えます。募金は、戸口や町内会などコミュニティ単位で集められ、各市町公衛協事務局に集約されます。その後、各市町で集められた募金が、募金委員会(募金を円滑にかつ公正に実施し、募金に関する一切の業務を処理する機

環境・健康募金は・・・

- 1 公衛協の活動資金
2 大切な自主財源
3 どう使うか、何に使ったか、目的・用途を明確に

募金の流れ・・・



コチエック事業など他3事業、環境と健康の学習ルームの運営などに使われます。
みなさまの募金が、健康で暮らしやすいまちづくりにするための資金として役立てられます。募金の仕組みをご理解いただき、ご協力をお願いいたします。

平成25年度公衛協ブロック会議

公衛協ブロック会議を、次のとおり開催します。申込みや詳細については、各市町公衛協事務局へお問い合わせください。

- 主な内容
○平成26年度地域活動支援センター事業計画について
○平成26年度全県共通事業重点メニューについて
○平成26年度環境・健康募金事業のすすめ方
○事業に向けた意向調査 ほか
■日時・会場 全会場とも10:30~15:00
○西部・呉ブロック 3月17日(月)
広島県公衆衛生会館6階講堂(広島市)
○福山・尾三ブロック 3月18日(火)
環境保健協会東部支所3階大会議室(福山市)
○北部ブロック 3月20日(木)
三次市文化会館2階大会議室(三次市)
■対象 市町公衆衛生推進委員関係者 など

平成25年度 地区衛生組織活動資金募集 『環境・健康募金』



通称 『環境・健康募金』

環境・健康募金(旧 健康感謝募金)は、昭和35年から実施し、平成25年度で54回目を迎えました。集まった募金は、募金委員会によって適正に配分され、各市町公衛協の活動資金として地域社会に役立てられています。

環境・健康募金 総額(円) 56,726,992

Table with 4 columns: City/Town Name, Fund Amount (円), Achievement Rate (%), and other details for various municipalities.

Table with 4 columns: City/Town Name, Fund Amount (円), Achievement Rate (%), and other details for various municipalities.

地区衛生組織活動資金募集事業、通称『健康感謝募金』は、平成25年度より『環境・健康募金』へと改めました。引き続き、ご協力をお願いいたします。

平成24年度まで 『健康感謝募金』 → 平成25年度から 『環境・健康募金』

市町別一覧表(平成26年1月末現在)

※この表は、平成26年1月末までに市町公衛協事務局から募金委員会に振込みのあった実績額を示しています。